

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 8 月）	今回（平成 18 年 11 月）	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

化学は、自動車用タイヤや合成ゴムなどの樹脂原料が引き続き好調であったため、おおむね横ばいで推移している。鉄鋼は、車や造船向けが、輸出も含めて引き続き好調であったため、3 四半期連続で増加している。輸送機械は、国内向け完成車は伸び悩んでいるものの、国外では北米向けを中心におう盛な需要があることから、増加している。一般機械は、前期の反動で減少はしているものの、自動車のプレス用金型などは好調であり、堅調に推移している。電子部品・デバイス、デジタル家電や携帯電話向けの部品が引き続き好調であるため、増加した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年9月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

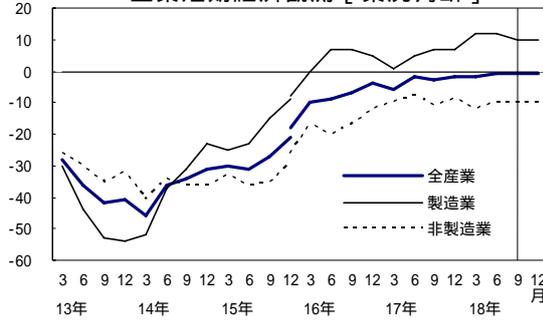
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.6	0.3	0.1	0.1	4.8
鉄鋼	12.1	0.3	2.9	4.7	1.4
輸送機械	12.0	3.1	1.5	1.0	0.4
一般機械	10.4	11.6	7.0	8.4	4.1
電子部品・デバイス	7.6	2.5	14.8	8.0	-
鉱工業	100.0	2.1	0.7	0.3	0.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

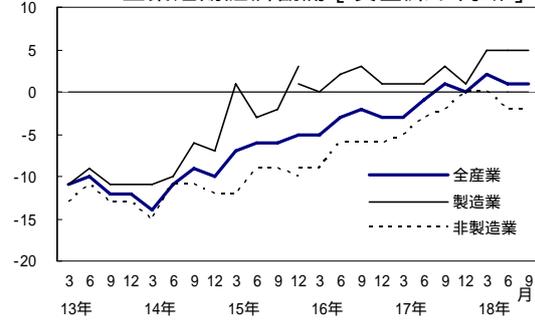
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



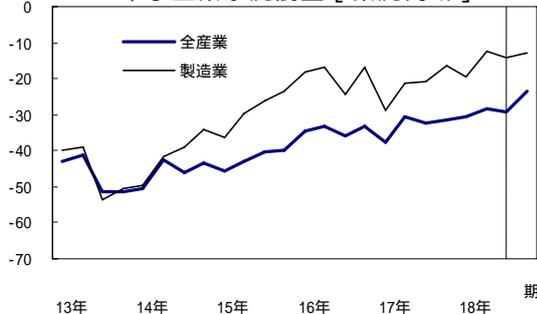
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「年初から大きな影響を受けている原油高の余波が、まだ収まりきれていない。物流関連(特に海運業)は低迷しているため、海事関係の業種がさえない。反面、自動車関係の業種は相変わらず好調で、強気の予測をするところも何社かある(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

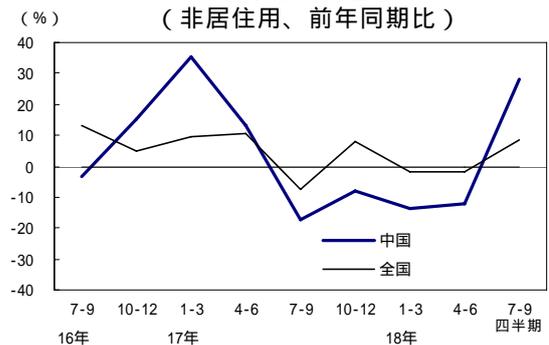
(3) 18年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	10.1	1.7(8.1)
製造業	21.1	4.2(13.5)
非製造業	6.7	13.6(0.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

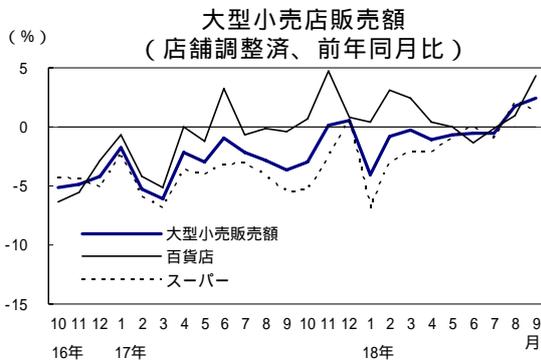
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセール効果で衣料品は好調であったものの、天候不順による清涼飲料水やアイスの需要減や中元ギフトの前倒しの影響により、3か月連続で前年を下回った。8月は、気温が高めに推移したことから、ビールや清涼飲料水などの飲食料品が好調であったため、4か月ぶりに前年を上回った。9月は、気温の低下により、紳士服やブーツなどの衣料品が好調であったことから、2か月連続で前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の10月の売上高は、前年同月比で4.2%減となっている。

スーパーは、主力の衣料品、飲食料品が好調であったため、前年を上回った。

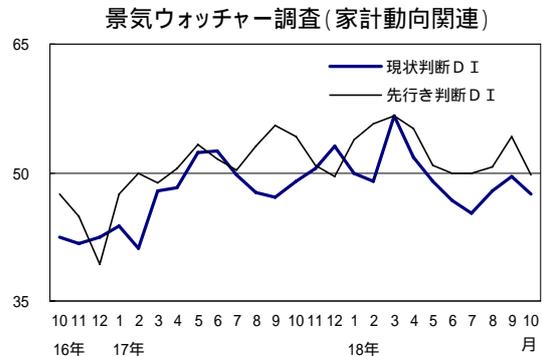
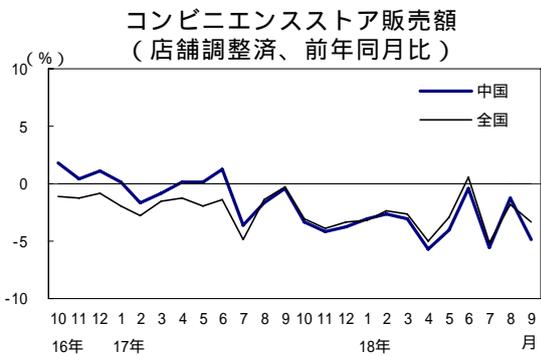
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「高額品であるナビゲーションは、地上デジタル放送が思ったより悪く、昨年を下回る状況が続いている。冬用タイヤの動きは昨年の寒波の影響からか動きが例年になく良く、好不調が部門間でまちまちで、全体的には横ばいである(自動車備品販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.6	1.8	0.8	1.0
百貨店	1.9	1.8	0.3	1.4
スーパー	2.3	4.2	1.0	0.8
コンビニ	3.8	3.0	3.4	3.9
景気ウォッチャー	50.8	51.8	49.1	47.6

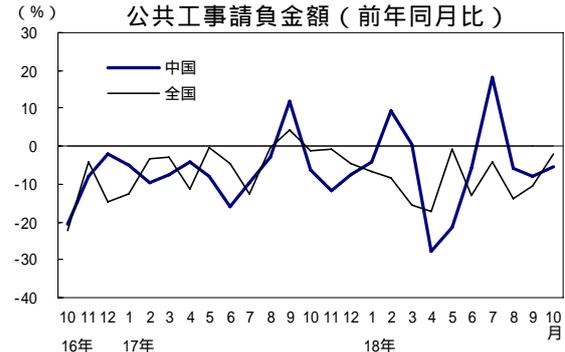
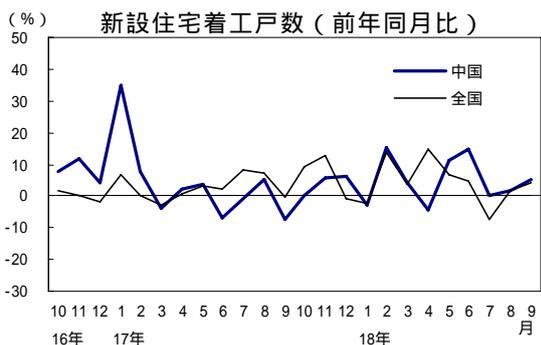
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

給与が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

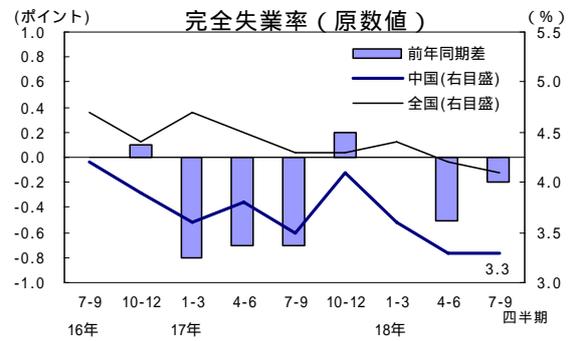
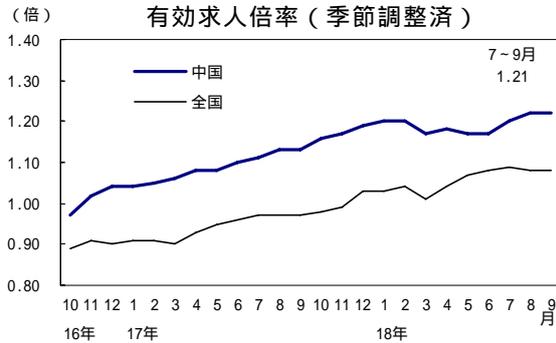


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

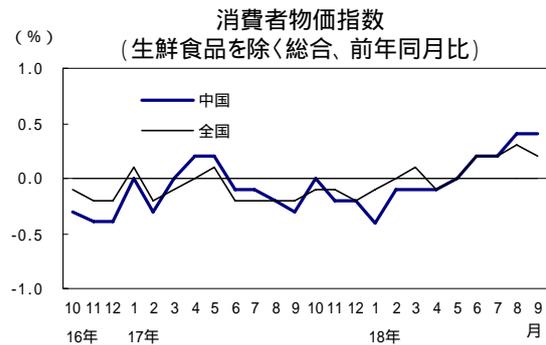
「紹介予定派遣による正社員雇用が前年同時期と比べ1.5倍以上になっている。長期派遣の予定だった案件が正社員採用に切り替わるなど、企業の正社員採用意欲が高くなっていることがうかがえる (人材派遣会社)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	153	184	145	175	62
(前年比)	9.3	38.3	3.3	49.6	47.6
負債総額	626	772	498	1,208	168
(前年比)	94.2	84.4	31.9	185.2	18.6



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・石油高騰後、コストも高止まり状態で落ち着いてきたので、客も様子見から動きへと転じる傾向が見られる (設計事務所)

<先行き>

・山口県では11月3日から「国民文化祭」が開催される。最近の好調さはこの波及効果と思われるが、あくまで一過性の認識は否めない (広告代理店)

